

わがまちあの人この人

千鳥一丁目 渡辺 文夫

今日は千鳥交友会々長の渡辺文夫さんにお話を伺いました。今から十五年前の昭和六十年四月、木我さん・西峰さん・幡野さん・渡辺さんの四人で湯河原の大滝ホテルに宿泊、交友会の規約を作つたのが、そもそもの始まりとのことです。初代会長は木我さん。二代目に西峰さん。三代目幡野さんは百十名で、千鳥小学校に毎年ゾウキン二百枚を寄贈されています。また、ゲートボール大会では、優勝一回、準優勝一回の強豪とか。京都から表彰も受けて、ますます元気な千鳥交友会であります。(水野委員 聞き取り)

平成今昔ものがたり

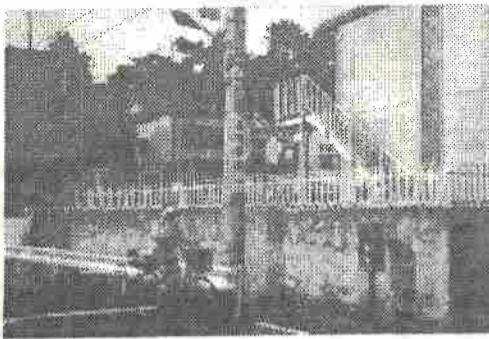
千鳥一丁目付近

千鳥一丁目 水野 敬司

左の写真は女性の服装からみて、一月の時期と思われます。場所は千鳥町駅ホームの、久が原よりの踏切りからのもの。昔の荒川病院付近の風景も、四十年近く歳月がたつてみると・・・。

私の好きなことば

鶴の木二丁目 松本 浩三



「シンプル・ライフ」英語を習い始めたころから覚えていることばである。簡素で質素な生活、そして気持ちの上ではなにものにもどうらわれない自由闊達な生活、これが私の生き方における理想であり目標もある。「壯心未だ落ちず、風月長く相守る」この古語は、だんだん老年に近づいてからときどき口づさむようになつたことばである。常に新しい時代の感触を失うまいとする心構えである。「人間であることは、すなわち闘士」ドイツの偉大な詩人ゲーテのことばである。この意味は戦争とか、喧嘩とかすることではなく、社会悪に対しても勇敢に戦うことである。私はそれと同時に自分自身の弱さと戦う闘士でありたいと考えてきた。

リレーエッセイ



俳句

南久が原二丁目 小原 青文

両の手に朝顔市の

行灯提げ

素朴なる音色を今に

江戸風鈴

色褪せし甚平にして
肌に合ひ

編集後記

七月は社会を明るくする運動月間です。すべての人々が犯罪や非行の防止と罪を犯した人達の更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯す罪や非行のない明るい地域社会を築こうとする運動です。楽しい夏休みももう間近です。この時期をとらえ鶴の木出張所管内では、ミニ集会を行います。青少年の健全育成に努めるため、皆様ふるつてのご参加をお願い申しあげます。



鶴の木特別出張所管内	
人	男10, 631名
口	女11, 049名
世帯数	計21, 680名
平成12年6月1日現在	10, 535世帯

編集長 池田 進太郎